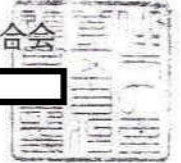


2012年4月18日

滋賀県知事
嘉田 由紀子 殿

仰木の里学区自治連合会
会長 []



ご連絡と要請

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は滋賀県民の生活、また、滋賀県民の安全・安心の確保のためご尽力いただいていることについて深く感謝申し上げます。

また、仰木の里学区住民の様々な取り組みに対し、格別のご理解を賜わり住民一同深く感謝申し上げます。

仰木の里学区自治連合会では、先の定期総会において役員体制が新たになりました。15年間にわたり会長として仰木の里学区のまちづくりにご尽力いただいた [] 氏に代わり、多くの自治会長等の支持を受け [] が会長に就任、執行部も新たに [] 副会長、 [] 副会長、 [] 事務局長共々新体制を構成し活動を開始いたしました。

仰木の里学区に暮らす約4,300世帯、約13,600人の住民の方々と共に、地域の発展と住民の暮らしと安全を守ることを最優先に、住民の意見を多く取り入れ、自助・共助の基本単位として自治連合会がその役割を果たせるよう役員一同努力する所存です。嘉田知事様をはじめとする行政の皆様方の今後とも変わらぬご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

さて、2010年10月以降、仰木の里学区住民が大きな関心と不安を抱いております。幸福の科学学園の仰木の里学区への進出には、貴職と津市長はじめ許認可権等を有する各方面の方々に対し、学校設置に関して法律に則って慎重に審議いただくよう要請ならびに、住民不安の解消に向けた行政指導の要請をしまいにしました。

しかしながら、住民不安は解消どころか不安が増す状況に至っています。昨年末の仰木の里学区自治連合会定例役員会においてもそれを前会長も認めておりました。

学校は緊密な地域連携のもとに設置されるべき公共性の高いものでありますが、学校建設で地元住民（自治連未加入自治会含む）、76%もの世帯が、自分たちが平穩に居住する住宅地の真ん中に、住民とは全く関係ない特定の生徒、教師のみを想定した全寮制に近い学校を建設することに反対の意向を持ち、署名という形で意思表示しております。昨夏に30,999名の署名を貴職へお届けさせていただいています。

学校建設においてこのようなことは全国でも例がありません。

仰木の里学区自治連合会においても、昨夏自治連加入自治会対象に、アンケートを実施しましたが、同様に77%の反対という結果になっていたことも合わせてお伝えいたします。

現時点において、学園側と住民側が歩み寄れない状況下では、学園が建設されたとしても地域連携は到底難しいものと予想されます。

また、現在、大津市建築審査会にて幸福の科学学園建築確認取消請求の審査中ですが、時間をかけて慎重な審議がなされております。

幸福の科学学園建設予定地の地盤の安全性につきましては、情報公開制度で得た情報や、建築審査会に提出されたボーリングデータを専門の先生方に分析していただいたところ、過去に数度数箇所地すべりを起こしており、阪神淡路大震災や東日本大震災、昨夏の大雨や暴風による大規模大災害等においても明らかになった「谷埋め盛り土」が大半を占める非常に危険性の高い地盤であることが判明しました。

今回のボーリング調査データを分析した結果、学園建設予定地には大規模施設等、特に学校建設には相応しくない結果が出ております。あわせて昨年末にUR都市機構より報告された添付書類で大津市は、この「谷埋め盛り土」に一次防災管（開発時埋設された防災用地下埋設有孔管）が存在している事を初めて知った状況です。この一次防災管は機能していない状態の可能性が高く、先の新潟県で地すべりがあった地盤状況とよく似ており、地すべりの危険性が非常に高い土地になっております。これは、仰木の里学区住民の大切な生命、身体に影響が出ることが予想されます。（別添）

このように軟弱で危険な地盤であるということが判明し、また、一次防災管の上流は住宅地から始まり仰木の里東公園の地下深くに埋設されており、学園建設予定地に繋がって御呂戸川に放流されています。民間地を經由しているこの一次防災管の保全問題など幸福の科学学園建設においては地盤の開発行為が必要と思われます。

軟弱地盤に対して開発行為、擁壁なしに大規模施設の建築を進めることは遺憾であるとともに、住民の不安が広がるばかりです。

安全で安心なまちづくりを行なうためにも、学園建設予定地の地盤を調査のうえ、本当に安全で安心できる地盤であると滋賀県が宣言していただけるまで、仰木の里学区自治連合会は幸福の科学学園建設予定地での大規模施設の建築は容認できないことを宣言いたします。

つきましては、仰木の里学区自治連合会は、貴職に対しまして以下の点について要請をさせていただきます。

公務ご多忙のことと存じますが、仰木の里学区13,600人の住民が「住んで良かった滋賀県・仰木の里」「住んでいる滋賀県・仰木の里が大好き」と言える、平穏で安全・安心な暮らしができる切なる願いをお聞き届けいただきますようお願いいたします。

敬具

【要請事項】

1. 住民の要望と意向を直接お聞きいただく場として、知事と住民代表との懇談の場をできる限り早急に設けてください。
2. 滋賀県と大津市との県市連携会議で幸福の科学学園建設予定地の地盤問題、学園と地元自治会との地域連携が出来ていない現状を認識していただき、学校設置基準に照らしあわせて認可できるものか否かをご判断いただき、仰木の里学区住民にとって最善の結果が出るようご配慮ください。
3. 幸福の科学学園建設予定地の地盤の実態を専門家にご確認していただき、学校設置基準に適合している地盤であるか判断していただくこと。また、幸福の科学学園建設予定地の地盤の安全性について専門家の分析を踏まえた結果を住民に示してください。
4. 学校設置認可申請を審議されている私学審議会において、地元の自治連合会が幸福の科学学園の建設および進出に対し大いなる危惧を抱いていること。地盤については専門家の意見を取り入れ審議していただくこと。地すべりの危険があるため、開発行為、擁壁なしに建築を進めることを容認していないこと。また、現在の状況においては、地域連携に至る道標が見当たらないこと。以上の4点を私学審議会にご通知ください。